

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693500015		
法人名	社会福祉法人京都南山城会		
事業所名	グループホーム 涌出ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市山城町平尾里屋敷69番地4		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693500015&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693500015&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年12月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人らしい暮らしの支援』を目標にし、その人らしく、喜びや楽しみのある生活を目指しています。昨年度より取り組んだライフサポートシートを活用しながら、その方のペースや生活リズムを大切に、日々、関わっています。今年度はセンター方式を使用しながら、収集した情報やご本人の思いをもとに、各担当者ケアプランづくりに取り組んでいます。ご本人がどのように暮らしていきたいかを形にしたケアプランづくりを通して、職員皆で話し合いを重ねる中でその人らしい暮らしを考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、地域の行事などに積極的に参加し、夏祭りでは企画から携わって出店したり、ホームの消防訓練では多数の地域住民の参加が実現しています。地域ケア推進会議のイベントに参加して認知症の理解や地域密着型の意義について伝えるなど開設以来の関わりの積重ねによって地域との良好な関わりが構築されています。また、法人全体で身体拘束委員会があり、職員は年4回の「身体拘束ゼロアンケート」や認知症ケア研修を重ねて日頃から認知症ケアについて振り返りや考える機会がつけられています。利用者の思いや細かな情報、状況をまとめた「ライフサポートシート」を活用して一人一人に寄り添いながら理念に謳う「その人らしい暮らしの支援」の実現に取り組んでいるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「支えあい、微笑みあって、安心して住める地域づくり」を理念とし、利用者ひとりひとりの暮らし方を大切にケアを機会あるごとに皆で確認し合い、日々の実践に活かせるように努めている。	法人の理念を基に、年度毎に事業所の支援目標を職員間で検討し定めています。今年度は「その人らしい暮らしを支援」とし、職員会議で日々の生活でその人らしさが実践できているかなどを話合っています。リビングには目標を利用者が毛筆書きにし掲げられ、家族や来訪者にも知ってもらっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(敬老会、学校行事等)には積極的に参加している。毎年、施設の裏にある涌出宮の夏祭りでは、自治会の方々や協力して屋台を出しています。施設での消防訓練や年末の餅つき大会等、地域の方々にも参加していただき、交流する機会を設けています。地域の子供会主催のラジオ体操の場所を提供、利用者も参加し、交流の場ともなっている。	日常的に挨拶を交わし、涌出宮の夏祭りでは企画から参加して出店したり、世代間交流として小学生の来訪や運動会の見学、ラジオ体操の場所の提供などを行っています。書や初釜、草刈りなどの様々なボランティアの来訪もあり、開設以来の交流の積み重ねによって地域の一員としての交流が構築されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協主催の介護者交流会や市の民生委員への施設見学の場を提供している。 地域ケア推進会議のパネルディスカッションにおいて施設の様子を地域住民に知らせ、認知症の人を地域で支える方法をつたえた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に併設の小規模多機能と合同で開催している。さまざまな取り組み他、参加者に利用者の状況を報告し、意見交換している。また地域の情報を聞く機会となっており、アドバイスをいただいている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議は、高齢介護課の課長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、家族などが参加し、ホームからの報告や参加者からの意見交換を行っています。意見や提案を受けて、火災事故の事例を挙げ地域や家族参加の消防訓練が実現するなど有意義な場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、高齢介護課の課長、包括支援センターの職員の方にも参加していただいている。	運営推進会議への市職員の参加があり、地域包括支援センター主催のネットワーク会議や審査会などで、市の職員と気軽に相談できる関係ができています。審査会への出席時や電話などでも日常的に相談したり話し合っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、個々の行動特性を理解し、見守りを行っており施錠していません。玄関の施錠は、夜間のみ、防犯上施錠している。施設全体の取り組みとして、身体拘束委員会を中心に、個人や職員間で身体拘束について振り返り、確認する機会を設け、取り組んでいます。常に、意識できるような環境となっている。	法人全体で身体拘束委員会が設置されて会議の内容は職員全員に伝達しています。また「身体拘束ゼロアンケート」を実施し、結果を会議で話し合うなど何度も振り返る機会をつくっています。玄関は施錠せずにセンサーで対応し、外出したような様子があれば利用者には出来る限り一緒に外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、身体拘束委員会を中心に、同上のような取り組みを実施しています。日常のケアの中でも小さな傷やあざも見逃さないようにしており、決して虐待がないよう、職員全体が周知し、努めている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修は行っていないが、権利擁護の基本である尊厳についての意識やケアのありかたについてのアンケートや話し合いは行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書・重要事項説明書を全て家族に説明し、質問や不明な点があれば、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。意見箱には投書はありませんが、利用者の希望や困っている事は日常の中でできるだけ把握するよう心掛けている。また、年1回、利用者のご家族に対して満足度調査を実施している。またケアプラン更新時、運営推進会議などの機会に、直接意見や要望を聞き、それらを運営に反映させている。	来訪時やホームの行事、家族会、運営推進会議などで意見や要望を聞いています。また年1回家族と利用者のそれぞれに満足度調査を行い、結果や出された意見などは職員会議で今後の方針に繋げています。アンケートでも聞きとれていない利用者や家族の思いを、どう聞き出せるかなど課題を見出し、更に討議を深めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見を出し合い、話し合っている。またその都度、意見を聞く機会を持っている。年2回、施設長・管理者との面接もあり、意見・要望・相談などできる機会をもち、運営に反映させている。	毎月の職員会議は全職員の出席で行われ、日常的にも意見が出やすい環境で活発に話し合われています。また年2回の自己評価票を用いた面談でも意見や要望を出す機会があり、遅出の時間の検討など出された意見や提案はケアや運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、全職員が各自、目標・勤務状況等について自己評価する機会をもち、それを元に、施設長との面談を実施している。また、資格取得のための勉強会も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員にあわせ、施設内外の研修を実施している。また職員が受けたい研修を積極的に受け入れるような環境がある。今年度は法人内で、認知症ケア研修を企画し、全員の職員が参加しており、組織全体のスキルアップ・質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修において同業者の方々と交流する機会はある。法人内の委員会活動や勉強会へ参加し、サービスの向上に努めている。また、先進施設を見学して学習する機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会話の中で、思い・不安・要望等率直な気持ちが聞き出せる様に努めています。聞き出せた情報を全スタッフが共有し、日々のケアに生かせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とお話をする中で、家族の苦労された話しや思い、要望、利用者にとどの様な生活を送っていただきたいか等、自然に聞き取れる様に努めています。また、いつでも気軽に相談出来るような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「その時」求めている支援が異なっている場合でも、両者とじっくり話し合い、両者にとって一番最適な方法を見つけていく様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と日々一緒に生活する中で、コミュニケーションを大切に利用者を尊重し、理解して何でも話し合える関係づくりに努めています。利用者の長年の人生経験から、色々なことを教えていただくことも沢山あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事の敬老祝賀会や日帰り旅行等、家族の参加もお願いしており、本人と共に楽しいひとときを過ごしていただける機会を設けています。毎月、ご家族への手紙を出し、利用者の様子を報告、小さなことでも常に連絡をとり、相談しながら支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に、利用者が自宅で生活されていた時のお友達や、兄弟等が訪問に来られることもあります。ご家族や知人などいつでも来て頂ける様にしており、良い関係が継続できるよう支援している。行きつけの美容院に行ったり、近くの神社の夏祭りや秋祭りに参加するなどの支援をしている。	友人、知人の来訪があり、行きつけの美容院の利用が難しくなった利用者には、美容院と相談してホームへの訪問に切り変えるなど馴染みの関係が途切れないように支援をしています。地元の夏祭りや秋祭りの参加など、馴染みの行事に参加できるよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の利用者がその人らしく暮らせるよう、なおかつ共に生活している者どうし、助け合い、支えあっているよう、職員も間に入り、援助している。フロアの座席は、利用者同士の関係を把握したものとなっております。食後の下膳等も同席の方同士が声を掛け合って下げてくださいます。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了された方・家族についてもこれまで通り、気軽な相談窓口としての役割が果たせるよう、心掛けている以前、利用されていた子族がボランティアに来てくださる関係も続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年に一度実施する「満足度調査」や「私の姿・気持ちシート」の記入等によって、希望や意向の把握に努めています。また、昨年から作成している1日の流れの中でどのように支援していくかを落とし込んだ「ライフサポートシート」の見直しも個々に行なっている。	入居前は出来るだけ多くの情報を本人や家族から聞き思いの把握に繋げています。意思表示が困難な方を含め日々の関わりの中で気持ちを汲み取った内容を「私の姿・気持ちシート」に職員が記入し、一人ひとりの思いや希望の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者自身のお話や、入所の際の情報提供書・家族の協力を得ながら、利用者のこれまでの暮らし、生活歴等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用したり、涌出オリジナルのライフサポートシートを作成し、利用者の暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によるアセスメント、「私の姿・気持ちシート」や「24時間シート」等に基づき作成した、「ライフサポートシート」を準備し、全職員でカンファレンスを開いている。また、今年からケアマネの指導の元ケアにあたる職員が本人の思いを汲み取ったケアプランを作成することを目標としており、取り組んでいる。ケアプラン行動実施表は毎日記録し、月1回評価・見直しを行なっている。	利用者の希望や意向を基に全職員でカンファレンスで話し合いケアプランを作成しています。プランの見直しは年1回ですが、職員はケアプランの実施を日々記録し毎月評価することでプランを振り返り、介護内容の見直しを行い状況に変化があれば随時カンファレンスを開き、プランの見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌・行動実地表・医療日誌・申し送りノートに記入し、情報を共有しています。また必要に応じて食事、水分摂取量、24時間シートを使ったりしながら、その時々に必要な情報を記録して日々のケアに生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態は、日々変化しているため、その時々合ったケア、個々のニーズに合ったケアができるように、柔軟な対応を心掛けている。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアや、行事の際、地域のボランティアの方々に舞踊・マジック等を披露していただいています。民生委員さんにボランティアで毎月、書道を教えていただいている。社協主催の地域の祭りに日頃、皆で作っている作品を出品している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されるまでのかかりつけ医を継続しています。必要に応じて変更や専門医に繋げる支援も実施しています。受診が難しい場合は、往診もして頂いています。薬の調整が難しい利用者については職員が家族と共に受診に付き添い日々の状況を伝えている。	契約時には利用者や家族の意向を聞いており、殆どの利用者が入居前からのかかりつけ医を継続されています。かかりつけ医の往診もあり、電話での相談や受診時は家族に同行してホームでの様子を伝えるなど、適切な医療を受けられるよう連携を図っています。また、看護職員が日常的に健康管理を行い支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日「医療日誌」をつけ、介護職は全員目を通し、情報を共有しています。利用者の身体で気になる箇所があれば、看護師が直ぐに確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーは、利用者の入退院時は、関係者との会議に出席し、情報交換・相談が出来るような関係づくりを実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にホームの方針を記入しており、入所時には家族に説明をし、同意を頂いている。重度化・終末期になっても、その人らしく、生活していただくために、家族・医師・職員と話し合い、支援している。	事業所の看取り指針があり、入居時に説明して意向を聞いています。利用者の重度化がみられた場合は、家族、医師、職員で都度話し合いを重ね、夜間の付き添いなど家族の協力を得ながら、その人らしく生活ができるように状況に応じた支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携し、年に数回実施される「普通救命講習」に職員も参加し、実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、利用者と一緒に避難訓練を実施しています。又、年1回、地域住民の協力を得て、避難訓練を実施し、日頃から協力体制を築いている。	消防署の協力を得て年2回昼夜想定で避難訓練を実施しています。地域住民にも参加していただき理解を深め、地元消防団も含めて協力体制が築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛け、対応しています。言葉遣い・身体拘束については、身体拘束委員会が実施するアンケートにより、実態の把握も行なっています。不適切な対応はその都度注意し合い、プライバシーを尊重した対応になっているか確認し合っている。	職員全員が研修を受けると共にほとんどの職員は認知症ケアの実践者研修を受け、知識を深めています。身体拘束委員会のアンケート、カンファレンスなどで振り返りや話合う機会があり、また不適切な言葉使いや対応が見られた時は、職員間で都度注意し合い問題点を把握分析し適切な対応ができるよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に判断できる内容のものは、本人に選択して頂けるような声かけを行なっています。また、日常の会話の中でその方の思いや希望を汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の柱になる流れはありますが、その日の利用者の状況や環境、ペースに合わせて一日を過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容など利用者個々でされている方もいるが、出来ない方には、声かけ、その都度確認を取りながら一緒に準備させていただいている。旅行など外出着はご家族がおしゃれできるよう準備して下さっている。カットは、近隣の美容室に行かれてる利用者もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米とぎ、野菜の皮むき等の下処理といっただける範囲で準備に参加して頂いています。食事は職員も利用者と同じ物を同じ時間に摂ります。出来る方には、下膳やコップ拭き等の後片付けにも参加して頂いている。	食事は、下準備や配下膳など利用者のできることを見つけて職員と一緒にを行っています。昼食は業者からチルド状態で届けられています。朝夕は担当職員が献立を考えて畑で収穫した野菜を使ったり、利用者と食材の買物に行き調理しています。家族と一緒に夕食をしたり、出張寿司屋など行事食の楽しみも企画されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもとで献立は立てている。食事量や水分摂取量が少ないと思われる方については、チェック表をつけ、一日の合計をわかるようにしています。利用者の嗜好を理解し、不足分などはその方が好きな物で代替し、摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な利用者には、声かけや一部介助にて実施している。		

グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて、個々の排泄パターンを出来る限り把握し、その方に合ったタイミングでトイレ誘導を実施している。また、尿・便意が訴えられない方は、仕草などでトイレ誘導を実施する場合もある。	トイレでの排泄を基本に考えており、排泄チェック表で個々に合ったタイミングや声かけをして支援をしています。夜間対応も睡眠とトイレへの誘導のどちらを優先するか、また適切なパット選びについてもカンファレンスを行い職員間で検討して決めるなど利用者本位の対応に心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に牛乳やヨーグルトを召し上がって頂いたり、便秘の方にはリブレフラワー（玄米を粉にしたもの）を飲んで頂いたり、また、トイレで排泄出来るように排泄チェックを行ない、間隔を見てトイレ誘導を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2～3回入浴して頂ける様にチェックしているが、個々の体調・気分に合わせて、その日その日で調整を行い、実施している。	1対1の入浴介助は職員と語り合う機会となり、会話が弾み利用者の楽しみとなっています。声掛けの順番やタイミング、その日の気分に配慮しながら対応しています。拒否の方には無理強いせず気分を変えてから声掛けをしたり、職員を変えるなど工夫しています。柚子湯や菖蒲湯など季節のお風呂もあり楽しんでもらうよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣については、個々の状態に合わせてあまり決まりごとをせず、休息して頂いたり、起床時間もそれぞれの時間に合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により「服薬管理表」を作成し、わかりやすくしている。日々、状態観察し、変化があった時には、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝は利用者と職員と一緒に掃除をしている。その方にあった掃除方法で、共に掃除をするということで、一緒に生活をしているという実感に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の裏はお宮さんになっており、気候の良い季節は散歩などを行っています。また、年行事以外にでも、コスモス見学など近隣へドライブに出かけたりすることもあります。誕生日には、ご本人の希望を聞きながら、外食したりする機会はある。年1回、日帰り旅行でご家族と一緒に出かける機会を持っている。	重度化が進む中、外出が難しくなってきました。裏の神社までの散歩や庭が見えるテラスに出て外気浴を楽しむなどして過ごしてもらっています。紅葉やコスモス見学など近隣へドライブに行き、と戸外に出る機会を個別の外出支援にも努めています。	



グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はして頂けていないのが現状ですが、一緒に買物に出かけた際は、立替にて、好きな物を購入して頂ける様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者にもよりますが、お友達や家族へお手紙を書かれています。投函時は、利用者と一緒にポストまで行きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花やカレンダー、色紙等で季節感を取り入れています。テラスでは、季節の野菜、花等をご利用者と一緒に育て、栽培した野菜を収穫し、利用者と一緒に料理をして食べる事もしています。また、常に「居心地のいい空間作り」について工夫している。	リビングの明るく大きな開口部からは菜園や花壇、田園風景が見られ季節感にあふれています。月毎の手作りカレンダーや季節の飾りは皆で飾り付け、利用者の作品の展示や季節の花が生けられ温かな印象となっています。フロアの所々に椅子が置かれ個々の時間を過ごせるようにも配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や共有のスペースにも数箇所ソファを置き、利用者それぞれがご自分の時間を過ごされている。また、不仲な利用者同士の同席などはできるだけ避けるように、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族へは、本人が自宅で使い慣れたタンスやその他の物を持ち込んで頂ける様にご説明しています。また、個々の居室には、一軒家として、木の表札をあげている。	居室は1軒の家として入口に木の表札を掛けています。使い慣れた道具や家族写真、人形、仏壇、大型テレビ、ソファなど家族と相談して思い思いのものを持ち込まれ、職員と相談しながら居心地のよい空間づくりがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロー内部は手すりをつけ、玄関はバリアフリーとなっており安全な環境作りを提供している。利用者には、役割を持って頂き、出来る事は出来るだけ自力で頂ける様に支援している。		